

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075600090		
法人名	有限会社 三益		
事業所名	グループホーム 田苑		
所在地	福岡県宮若市福丸247番地1		
自己評価作成日	令和3年10月14日	評価結果確定日	令和3年11月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん	
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号	
訪問調査日	令和3年10月25日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サックス演奏やひょっとこ踊りなどのボランティアを招いたり、花見見物などに外出するなど積極的に地域・外部との交流を図っています。新型コロナ感染対策の影響を受けてからは、合唱会・民謡踊りなどの行事のほか、ぼた餅・どら焼きなどのおやつ作りや生け花など、利用者と共にホーム内でも出来る楽しい日常作りに取り組んでいます。自家農園で収穫された野菜を利用者が下さりえを行い、季節を感じながら手作りの料理は好評です。職員は会議でケアの振り返りを行い、定期的に内部・外部およびオンラインでの研修に参加しケアの質の向上に取り組んでいます。ワクチン接種後も、毎月のPCR検査を行いながら感染対策を継続しています。利用者の身体機能の低下に配慮しながら、毎朝の健康体操と個別のリハビリ訓練を継続しています。コロナが収束した後に再び、外出や家族・地域との交流を通して幅広い生活が出来るように利用者と共に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来18年、「地域の一人として、尊厳を持って生きていくことを支援する」をホームの理念に掲げ、重度化している入居者一人ひとりに寄り添い、その時々の方々の言葉をそのまま受け入れ、安全な暮らしの支援に励んでいる。入居者の意見で食材の配食サービスを止め、以前同様にホームの畑で栽培した野菜や旬の食材を使った職員の手作り食となり、どら焼きやお好み焼きのおやつを楽しんでいる。本人や家族の希望に沿って、経口摂取ができるぎりぎりまでホームでの生活を支援したいとの職員の思いが、個別の排泄パターンを理解した細やかな支援となっている。昨今の状況から家族との面会は玄関のガラス戸越しであるが、敬老会の笑顔満載の新聞を発行し、再開された健康体操で楽しく気分転換をしている。前年の大雨の折は自治会長のお世話で早めの避難ができたが、今年は公共ではなく自主避難場所を設定するなど、今後も地域密着型サービスとして、理念のさらなる具現化が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホーム 田苑**

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を玄関、リビングに提示して、申し送り、ミーティング等で実践の有無を確認している。管理者は職員へ反省点を助言して実践につなげている。ボランティアの演奏や踊りの訪問、地域の商店との交流などは感染対策のため、自粛の傾向となっている。	開設以来18年、「地域の一員として、尊厳を持って生きていくことを支援する」をホームの理念に掲げ、具現化に努めている。職員は、重度化している入居者一人ひとりに寄り添い、言葉による拘束にも留意しながら、安全な暮らしの支援に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し総会、親睦会、地域の行事等に参加し交流を深めている。年3回の地域清掃にスタッフが交代で参加している。七夕飾りの笹は毎年米屋さんが好意で準備してくださっている。	コロナ禍で行事が中止になる中、自治会主催の地域清掃への参加を継続し、前年の大雨の時は自治会長の計らいで早期の避難ができています。観光協会への加入も継続し、今年も芋掘りが予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常では、地域の方へ認知症の方の理解を深めるため、ホームでの健康体操、演奏会、毎月の勉強会等、地域の方にも開放して利用者様とご一緒に参加していただいているが、感染対策のため自粛の傾向になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での推進委員の意見・助言等、その都度職員に周知して改善を指示してサービス向上に生かしている。	新型コロナウイルスの感染防止の観点から、運営推進委員に会議録を送付し、電話で意見を伺っているが、特段の意見はない。議事録にヒヤリハットなど報告書を添え、整備している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者に運営推進会議への参加を仰ぎ、実情を把握していただいた上で、相談を行い、助言・指導等をいただいている。	地域包括支援センターや担当部署とは定期的な居室情報の報告や入居の問い合わせを行い、感染予防などの指導や助言を受け、相談や情報交換のできる関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内外の勉強会等で学習する機会を持っており、全職員が理解するように努めている。ベッド柵が必要な場合は「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書や記録」を利用者様・ご家族に説明して、承諾をいただいている。利用者様の状況、職員体制に応じて玄関は開錠している。	3か月毎に開催している身体拘束適正化委員会では拘束の有無やセンサー設置の継続など検討しているが、随時、状況によって職員間で話し合いの場を持っている。ベッドでの立ち上がり不安な入居者2名は夜間、床に寝具を敷いて眠るように工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内外の勉強会等で学習する機会を持っている。管理者は日々の生活の中で利用者のご様子の変化等に注意を払うと共に、委員会を活用してケアの振り返り・話し合いを行いながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会に参加して学ぶ機会を設けている。利用者で成年後見人制度を利用されている方もおられる。後見人とご家族との仲立ちなど各々の相談に応じ支援している。	入居後家族の事情から、成年後見制度の活用を支援して利用に至った入居者もある。キーパーソンが逝去され、現在活用を検討中の入居者もあり、パンフレットを整備し、制度等の理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時十分に説明を行い了承を得たうえで契約している。又、制度改正がある場合は再度説明して、同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を玄関に設置している。利用者様・ご家族の意見要望は、管理者・事務長が傾聴し、職員で話し合い、問題解決に努めている。	玄関のガラス戸越しの面会のため、電話や手紙で近況を報告したり、来所時は玄関フロアに飾った写真を見ていただき、要望や意見を伺っている。今年の敬老会は職員だけでお祝いが、9月には入居者の笑顔満載の田苑新聞を発行している。	田苑新聞の発行に加え、毎月の家族への連絡票の工夫で、さらなる意見の表出を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングのほか、問題が発生したり職員の意見がある時は早急に話し合い、検討して反映できるように努めている。また、意見ノートを活用し提案を集める機会を設けている。	昼食後のミーティングで入居者の状態変化や気付き、提案を話し合っている。パッドの当て方の変更やミキサー食を刻み食にとの提案で摂取量が改善したり、今回バルンカテーテルを挿入した入居者のケアのために、ネットで検索した資料で勉強会をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを図り、個々の職員と折々に面接している。勤務状況等で気が付いた時は職員の思いが話せる環境を作り、職員の働きやすい環境を整備するよう努めている。職員の高齢化にも配慮し、フォロー体制、業務体制の整備・改善に取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	コンプライアンス・人権を遵守・尊重しており、70歳、65歳以上の新規入職者もある。 管理者は、職員が希望に応じて勤務できるよう配慮している。	定年制は無く、現在、30代から70代の職員が、多様な働き方で就労している。長く勤めている職員が多く、いったん退職された方が再就職されるなど、個人面談で希望に応じた働きやすい環境作りに努めている。外部講師を招いての研修は中止しているが、リモートでの研修など、学ぶ機会の確保に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内外の勉強会などに参加して学ぶ機会をもって実践に取り組んでいる。感染対策のため、オンライン研修も活用している。利用者様の人権を尊重する為、職員全員で声掛けしながら対応している。	理念に入居者の尊厳を謳い、不適切な声かけや言葉遣いはその都度注意している。人権研修も今年はリモートで行われたが夕食時の時間帯で受けにくかったため、全職員に伝達講習をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の自主的な研修参加に配慮している。時間的な調整・支援に加え、資金的にも援助している。感染対策のため、オンライン研修も活用している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	宮若市の同業者でのGHみやわかの勉強会・親睦会に参加し交流している。意見交換の場となり、サービスの質の向上につながっている。感染対策のためオンラインで参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は利用者の状況把握の為、日勤・夜勤の職員を増員して、入居者様とコミュニケーションを多くとり、利用者様の要望に対応できるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に利用者様・ご家族様に見学に来ていただき、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスに繋がるように取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様の意向をしっかりと把握し、安心してサービスを受ける事ができるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として尊敬の念をもって信頼関係を構築している。入居者様から人生の経験で学ぶことが多くあり職員全員で実感している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添い、意向を聞きながら、利用者様と良い関係が築き上げれるよう努めている。面会や外出は時期的に制限はあるものの、、電話や手紙など通じて利用者様の近況をご家族に報告し、家族の絆を持てる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会・外出は自粛傾向であるが、玄関越しでの面会や、気にかけて来訪された知人の方等には、元気良く行事に参加されている写真を拝見して頂くなど、近況をお伝えし、関係継続の支援に努めている。	ボランティアの訪れもなく馴染みの行事が自粛の中、数か月に1回の訪問美容の訪れは継続し、馴染みの関係となっている。今月から外部講師による健康体操が再開し、月2回入居者達が楽しく気分転換をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や状況に合わせ孤立しないように、利用者同士が関わり合える環境づくりに努めている。重度の利用者にケアが偏らないよう軽度の利用者には言葉かけを多くするなどの工夫をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、亡くなられた利用者様の家族から現在も野菜の差し入れを頂くなど、退居後も友好な関係を継続している。他施設へ転居された利用者から再入居の希望があり、順番待ちしていただいた例もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人との何気ない会話や気持ちを伺う中で、本人の意向を把握し、できる限り、本人の要望に沿うよう努力している。利用者様に食べたい物を伺い、献立に取り入れている。希望される利用者様には個人リハビリを行っている。	アセスメントシートを活用し、これまでの生活や本人の意向を把握し、気づきノートで情報を共有している。毎日、玄関のソファで過ごしていた仲良し3人組の方々の一人は入院され、ひとりには仲良くしていたことを忘れられているが、その時々思いを支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族からの聞き取りを行い、主治医などから情報収集して対処している。昼夜逆転の利用者様には食事や入浴など他の利用者と共通の時間以外はできる限り自由に過ごしていただいている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中から利用者様一人ひとりの生活状況を把握、対処している。個人の状態に合わせて適宜休息できるよう支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中で、課題をミーティングなどで意見・情報交換を行い、検討し、現状に即した介護計画を作成している。歌、野球、動物など個人別に好まれそうなテレビが見れるように支援している。	入居者がこれまでできていたことができなくなったなどの状態変化は看護職員を通じて、介護計画作成担当者に報告し、計画の見直しに繋げている。運動のためと奥のトイレを使用するなど個別リハビリを継続されている入居者もあり、具体的な計画が実践されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様々な気づき等介護記録や申し送りで情報を共有し、常に話し合い実践に繋げている。変化があるときはその都度見直しをしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族の状況の変化、要望等にあったケアを支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様に行事や日常で、ホームの畑などの野菜の収穫や下ごしらえに携わっていただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族の希望したかかりつけ医との関係を継続している。月2回の訪問歯科、月1、2回の訪問診療、必要に応じて病院受診に対応している。緊急時の主治医との連絡体制もできている。	入居以前からのかかりつけ医の受診を支援しているが、家族の高齢化や入居者の重度化に対応して管理者が受診に同行することが多く、受診後家族に報告をしている。訪問診療や、訪問歯科の受診も活用して、適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師との情報交換を行い、状態変化等の場合は相談し、判断や助言を得ている。又、訪問診療の看護師とも連絡体制ができている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的にも連携して相談・助言・指示を頂いている。家族の要望等を踏まえ、早期退院がホームの方針であり、そのことは病院関係者に理解を頂いている。糖尿病の治療法を医療機関に相談し、インスリン注射から服薬治療に切替えていただいたことで当ホームで受け入れることができた利用者様もおられる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には必ず重度化の対応の指針・DNR・DNIの意見表示の確認書を取り交わしている。重度化した場合は、利用者様・ご家族・主治医・当ホームが協議して、利用者様・ご家族の意向を取り入れた支援に努めている。	「重度化した場合における対応の指針」を整備し、入居契約時に説明し同意を得ている。本人や家族の希望で、経口摂取ができるぎりぎりまでホームでの生活を支援しているが、入院間近と診断された入居者もある。主治医から入院を勧められ、病院で亡くなる方がほとんどである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、職員が順次講習会に参加している。ホーム内の勉強会で1年に1回は講師から実践指導を受けている。 急変時に、救急車を手配し病院へ搬送したことにより早期に治療することができた。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し、火災や災害時の対策を立てている。夜間・日中の避難誘導のマニュアルを作成して地域のボランティアも参加した避難誘導通報訓練を年2回実施している。豪雨災害等の際は、指定の公共避難場所のほか、感染対策のため自主避難場所を設置・活用し、早期の避難を実践している。	前年の大雨の折は、自治会長のお世話で早めの避難ができたが、公共の避難所は開設が遅くトイレなどが使用しにくいいため、自主避難場所を設定し、今年は2回避難した。緊急通報訓練を2回、春には消防署の立ち合いで避難訓練を実施し、水消火器による訓練を行っている。備蓄も分散して倉庫を設置している。	異常気象による災害対策のための備蓄台帳の整備や持ち出し書面の検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念に人間の尊厳を持って生きていく高齢者の支援を挙げ、職員に周知している。利用者様とは個人情報の取り扱いの受託書類を入居時に取り交わしている。職員とは入社時に契約書を交わし、個人情報の守秘義務を周知徹底している。	家族に了解を得て「○○ちゃん」と呼ばれる入居者もあるが、職員は言葉による拘束に留意している。記憶力の低下で日々話が変わる入居者に寄り添い、テレビ画面の風景に感嘆の声が上がったり、知っている歌を歌い出す入居者の姿をそのまま受け入れている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や自己決定をしやすい環境と関係を構築できるよう努力している。表出困難な利用者様には行動や表情から推し測ったり、丁寧な聞き取りを行うことで本人の希望を把握するようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者本位の介護を目標にしている。管理者はスローペースを心がけ、動作、言葉の速度、声の高さを利用者様に合わせるよう職員へ指示し実践している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様がお好みの洋服を着ていただいている。1日に複数回、着替えられる方、化粧品を使用される利用者様もいらっしゃる。 2か月に1回、訪問美容の日を設け、ヘアカットを行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜や地域の風習を献立に取り入れている。個々の咀嚼・嚥下状態に合わせ、食事の形態を変えている。利用者様と職員と一緒に食卓を囲み、楽しい雰囲気作りを心がけている。お盆ふき、エプロンたたみなど軽作業は利用者様に行っていたいいる。	入居者の意見で食材の配食サービスを止め、以前同様にホームの畑で栽培した野菜を中心に旬の食材を使った職員の手作り食となり、ミキサーや、刻み、粗刻みなど入居者に合わせた形態を提供し、おやつにどら焼きやお好み焼きを楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は1500ccを目標に支援している。主治医からの特別な指示のない方は1500kcal摂取を目安にしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、おやつ後、職員が見守り、介助して口腔ケアを支援している。義歯は毎晩洗浄剤で消毒している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様ごとの排泄パターンを把握するため排泄表を活用し、排泄誘導をしている。排泄が見られない場合はお腹に力を入れるよう声かけしたり、前かがみになって頂いたりして排泄を支援している。	昼間はトイレでの排泄介助を基本とし、立てない方も二人体制で介助している。排泄の時間、使用する尿取りパットの種類やあてかなど支援法が異なる入居者毎の排泄パターンを理解した細やかな対応が行われ、詳細な変化も気づきノートで共有している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きを良くするため、体操を行ったり、水分の摂取を支援している。毎日、午前中にヨーグルトを提供している。便秘気味の方には起床時、牛乳を摂取していただいている。排便困難時は適宜下剤の投与、テレミンソフトの挿入など個別に対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は3日に1回、安全を考慮して職員2名体制で介助を行っている。時間帯は午後のことが多いが、特別な場合はその都度対応している。	週2,3回を目途に入浴を支援している。職員の負担軽減と入居者が安心して入浴を楽しむことができるように二人体制での支援のため、他の施設でシャワー浴だった入居者も浴槽に入ることができる。臨機応変に時間や曜日の対応もあり、心地よい入浴を支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様には、自由に過ごしていただいている。居室で過ごされるときは、照明、温度、湿度管理に気を配り、気持ち良く休めるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者・看護師は利用者の処方薬の効用・副作用について理解し、職員に説明している。服用後は症状の変化などないか観察している。服薬介助時は本人の確認を行い、お名前を声に出してお口の中まで介助し、飲み込まれるまで支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、洗濯干し、お盆ふきなど軽作業を行っていただいている。ご本人が好まれる食品を個別に預かり、他の利用者様に配慮して食べていただける対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で自粛の傾向にあるが、状況に応じて、希望にそった外出支援に取り組んでいきたい。日常では、日本・世界の絶景DVDなどを見て楽しんで頂くなど利用者様に気分転換をして頂いている。	ホーム周りの季節の野菜や花を楽しみ、畑から収穫された作物を下ごしらえをしている。何より居室から眺める里山の風景は、入居者だけでなく職員も穏やかな表情になり、気分転換に効果がある。屋外では全入居者が車椅子の使用となるが、ドライブなどを楽しみにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、お小遣い程度のお金でもご本人・ご家族に説明を行い、同意のもとで事業所でお預かりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をする機会を設けたり、新年には年賀状を作成し家族にお送りするなど、家族等との繋がりに配慮し支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の視界に入る場所に季節を感じられる花や置物を置いている。利用者様が居心地よく過ごせる空間を配慮しながら工夫していくように努めている。複数台の空気清浄機を設置し、適宜換気を行い清潔な空気作りに努めている。居室のエアコン温度も利用者様の希望に合わせて調節している。	玄関を入ると正面や廊下にソファが置かれ、ホームの中から行きかう人々や景色が目に入る。いたるところにコスモスやダリアなど季節の花が飾られ食堂からは煮炊きの匂いや水の流れる音が心地よい刺激になっている、空調や光に配慮され、換気や感染対策に努めながら、穏やかな暮らしが継続されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、リビング、庭にベンチ等を配置しており、各自が好みの場所で気の合う利用者様と楽しく過ごせるように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や寝具、日用品、アルバム等を持ち込まれ居心地よく過ごされている。利用者様の状況に応じて、その都度工夫しながら居心地よく過ごせるように努めている。	居室の入口には木製の名札に写真が飾られ、避難の際には裏返して避難済みの目印となっている。担当職員とクローゼットに衣替えした荷物を整理している。使い慣れた藤椅子やテーブルが置かれ、本人の希望や安全面の配慮から床に寝具を敷いて眠る入居者もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに新しく開閉式の介助バーを設置するなど、利用者様の残存機能を生かせるように常に工夫し、個別に対応した安全な環境づくりに努めている。		